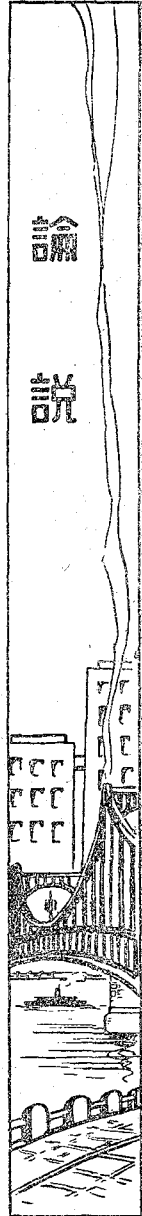


論 說

空襲下の都市道路

井 上 弘 道



道路は一國文化の表徴なりと云ふ言葉があるが、これは勿論謂ふまでもなく次の二つの意味をもつものと考ふべきであらう。即ち、その一は一國の道路は一國の文化に依つて規定せられると云ふ性質をもつものであると云ふ意味と、今一つは逆に一國の文化的生活乃至は文化程度を表徴する道路が一國文化の消長に至大の關係を及ぼすものであると云ふ意味の二面的意味である。然し茲に私が引用しようとするものは大體に於いて前者の文化によつて規定されると云ふ道路のもつ意義に就いてである。

嘗て本紙上に就いて發表したやうに、封建的社會は封建的道路を所産し、また大アジア的集團に於いてはその集團運営のために大アジア的道路を所産しなければならぬことは事實の證明するところである。これと同様な視角からみて、例へば交通機關の種類とか性質によつて道路のもつ効用性が支配せられるものであるが故に、交通機關の種類とか性質に基づいて道路の效用價值性の一般的な條件が變化し、これとともに道路そのものの技術的建設の方法や道路のもつ自體の道路工學的諸様相に就いても至大の變化をうけることは云ふまでもないことである。

例へば、中世封建社會に於けるが如く主として徒歩或は騎馬を主たる交通機關とした時代に於いては、道路は徒歩或は車馬を中心とした道路の建設が營まれたのであつて、換言すれば徒歩或は車馬と云ふ交通機關の性質とその種類が中世封建社會に於ける道路建設に至大の關係をもつてゐたのである。これと同様にして現在あるところの道路もそれで自動車の交通に便利だと云ふ意味に於いて自動車と云ふ交通機關を生んだのではなくして、事實は全くその逆である。即ち、自動車の發明と云ふ事實が先づ存在することによつて、それを利用し運行せしめると云ふ新しい道路の價值性に基づいて建設せられたものが即ち今日の道路である。従つて、今日存在するところの道路は自動車を主たる交通機關とする場合の道路に外ならないのである。

さて、汽船の發明と發達が陸上交通の形式に何等の變化をも及ぼさなかつたと云ふ事實を引證することが出來ない限り、われわれは飛行機の發明とその發達が陸上交通に何等の變化をも及ぼす

のではないと斷言することは不可能であらう。確に、航空機の發達は陸上及び海上の交通に對して非常な變化を與へたことは覆ふべからざる事實である。航空機のもつ特質からして一國の國防策戰の上に或は一國經濟の發達乃至は文化的交渉の上に至大なる影響を與へるとともに、更に道路そのものの上にそして道路網計畫の上に極めて大きな變化を及ぼすことになる。例へば、航空機及び航空基地を前提とした運輸交通國防等の見地からする新道路の建設、または國防的見地からする道路自體のもつ新使命と云ふ様に、道路が航空機の發達とともに重大なる變化影響を受けるのである。

従つて、われわれは航空機の出現とその發達に伴つて在來の道路を變更しなければならぬと云ふ考へに對して之れを一笑に附し去ることは出來ないであらう。故に、從來の道路は航空機の存在を前提としなかつた道路政策の殘物として之を認め、更に航空機の新しき出現下に於いて設計され建設された新道路に就いて主張することは極めて當然のこととしてわれわれに許されてゐると云はなければならぬであらう。

二

航空機の發達とその實際化は從來の種々の交通機關を壓到し全く交通機關の最前線に於いて、または最も優れたる交通機關として活躍しつゝあり、一國國運の消長は勿論國防及び經濟の關係の充實と發達は一に懸つて航空機の充實にあるとまで言はれる今日、世界各國共に航空機發達の影響に甚大な細心なる關心をよせてゐる状態である。

先づ、航空機の發達によつて受くる一般的な影響は如何なるものであるかと云ふと、之れは今更説明する必要を認めぬ程普く知られてゐるところであるが、運輸機能が迅速になつたと云ふ意味から例へば通常運輸交通上の發達と云ふことも考へられるであらう。然しながら、航空機發達に伴つて最も大きな變化をもたらしたものは國防上の問題である。即ち超高速度を有し自由無制限な空中に於ける航空路の活用して、爆撃に偵察に運輸に通信連絡にと云ふ具合に一國國防の作戰の上に畫期的な大變化をもたらしたことは特筆すべき點であらねばならないであらう。斯様な航空機の發達がもたらした經濟的社會的文化的的而して特に軍事的な影響が増大すればするほど、これらの基礎的要因を爲しつゝ常に不可分一體の關係にある道路もまた當然變化せられるべきであると云ふことは言を俟たないところである。

従つて、空襲下に於ける道路は、空襲によつて如何なる被害を受けねばならないかと云ふと、常識的に考へてみても先づ輸送能力の破壊であるが之れには、第一は軍事輸送道路の破壊と云ふ軍事的意味と、第二は經濟的物質輸送能力の破壊、第三には一般交通能力の破壊となるであらう。これは最近に於ける航空機のもたらした著しい戦績であることは云ふまでもないことであるが、特に近代戦は敵國の經濟能力を破壊することが作戰上必須の要件であるとともに戦捷を左右する鍵であるが故に各國舉つて敵國の經濟生活攪亂を緊急の問題とし、また他方に於いては敵國に於ける軍の輸送能力を破壊してその軍事作戰に支障を來たさしめることも航空機に與へられた重大使命の一つであ

る。これとともに、特に都市生活者に對して地方との連絡を遮斷し生活並びに軍需物資の不足による經濟生活の不安と軍需品の缺乏を招來せしめて戰鬪能力を消滅せしめると云ふことや、またそれによつて敵國民の思想の動搖を導かうとすることも極めて重要なその任務の一つであると考へられる。

次には道路と密接なる關係をもつところの通信連絡能力の破壊である。特に機械化された交通機關による道路は、かゝる交通機關としての使命ばかりではなく通信聯絡報導の諸機關が附隨してゐるのを特徴としてゐるが故に、空襲による交通網の破壊は同時に通信聯絡報導諸機關の停止または破壊となる可能性が充分に存在する。従つて、空襲下の道路はその側面に於いて斯様な點も考へねばならないであらう。

更にこれに次いで重要な點は、道路網を中心とし之れを媒介として工場、官衙、軍事的要據點を偵察し、之れを各個に爆破すると云ふ點である。之れは間接的であるが道路が一面に於いて空襲部隊の來襲に對して敵に工場乃至は軍事的據點などを知らしめる誘導的役割を演ずるとするならば、道路の利敵性として充分なる注意が喚起されなければならぬであらう。かやうにしてわれわれが常識的に到達し得た空襲下に於ける道路は、戰時下に於ける軍事、經濟、政治、思想の上に及ぼす影響が非常に大なるものであることを窺ひ知られるであらう。

特に近代國家の如くに、政治、經濟、軍事上の要地を爲す都市に於ける所謂都市道路に於ては、敵國空

襲の最大目標でもありその被害率から云ふと農村道路とは甚しく異り實に莫大であるばかりではなく、人口稠密にして而もその食糧と物資とを地方に仰がねばならないと云ふ前提下にある都市は單に各個に受けるであらう直接的な心臓的な被害の甚大性と共に都市道路そのものの持つ意義は實に重大でなければならぬと云ふことになる。

三

斯様な理由で空襲と云ふ前提下に、立たしめられた現代道路は、その意味に於いて新しい計畫の下に建設せられねばならないことは言を俟たないのみか、既にその筋に於いては夫々立案工作中のことと考へる。それにしても、か様な條件下にある現代道路は先づ空襲と云ふ立場から、從來のそれと比して極めて消極的な見地からしても、敵空軍に對して他の立體的構造物と同様に迷彩などによつて遮蔽或は擬装しなければならぬだらうし、更にもつと大切なる點はその道路の機能を停止せざるのみか益々安全にして且つ迅速にその機能を充分發揮せしめねばならないであらう。

このためには、或は同一目的に使用すべき道路にしても、軌道を以つてする道路の外に自動車道路やその他の道路を作つて、假令爆撃によつて一部の道路が破壊せられても、他の道路の活用による交通能力の安全性を確保することが必要であらうし、また全然道路を地下に埋めてしまふ新線地下道路を建設することが最も必要であらう。更にまた、軍機的にも速度的にも一般道路とは別に經濟道路とか軍事道路を完備することも必要とならう。

扱て都市道路に對しては、既述したやうにその被る可き被害及び影響が極めて重大である點に鑑み、特に道路計畫に深甚の注意が拂はれなければならぬ。都市道路に於いては之れは空襲の目標となり媒介となつてはならないと云ふ事、空襲下に於いても平常と變りなく交通運輸に支障なからしめねばならないと云ふ事、更に一般交通者乃至は都市生活者の防空地下壕たるの役割を果すべきものであらねばならないと云ふ事、また一種の安全地帯乃至は一種の防火線とならなければならぬと云ふ事、その他道路に附隨した問題としては道路を中心とした交通者に對する交通上の命令或は指揮を爲さしめることの出来るラジオ其の他通信報導機關の整備を有する事などに就いて研討せられなければならぬことは言を俟たない。

然るに從來の我國に於ける都市道路は、繰返へすまでもなく自動車的或は平和的な都市中心的な單純道路でしかなかつた。従つて、述上の諸要件を殆んど具備してゐないと云つても決して過言ではない状態ををかけてゐる。そればかりではない。我國の都市道路の特徴は、例へば當該單一市區内の街區を結ぶ道路であるから當然繁華街或は心臟部中心道路の觀を呈して裏街とか住宅街は全く忘れ去られてゐたことや、都市道路の配置そのものがアジア的な市井即ち碁盤目式のものではなくして心臟部への集中或は繁華街からの放射的なヨーロッパ式の道路であることを特徴としてゐる。しかもそれは少い數の放射でしかない。即ち關所を設けることを必要とした封建社會の必然的所産現象としてそれは鎖國的道路網と云はなければならぬ。かゝる開いた放射式ではなく閉

ちた放射式の道路網は、航空機の出現した今日の近代的道路の役割を充分に果し得ることは絶對的に不可能と云はなければならぬ。

かゝる意味に於いて都市と農村とを結ぶ道路と云ふものを考へるとき、その聯絡運輸に當つてゐる唯一の道路は或は主要な道路は所謂鐵路であると云ふ特徴をもつ事になる。これは近代的道路の發達上極めて價値高いものであることは疑ふことが出來ないが、これは平和と云ふことを前提としてのみのものであつて實に鐵路唯一主義の道路は極めて危険率が多いと云ふことにもなる。即ち空襲下に於ける鐵路は空軍の爆撃目標として最も重要なものであり、且つまたその破壊は鐵路を唯一とする道路網を有する限り實に致命的な損害とならねばならない性質のものである。若し假りに鐵路に於ける輸送交通能力の停止が生ずるならば都市の必需品は數週を出でずして缺乏を來し之れが補給も容易ではないと云ふ事態に陥らねばならない。如何に豊富な都市で多量の食糧品をストツクして置くことが出來たとしてもストツクには自ら限度があり、而も一度空襲の時に於いてはかゝる必需品倉庫は使用不可能となる怖れが多分にあり直接空襲部隊の目標たり得る危険性極めて多いのである。

更に島國的な性格のしからしめたのであらうか、雜然と家を建て、それから道路を作つたためか、道路網に統制なく規律なくおまけに幅員の狭い路を人間のうごめくことを特徴としてゐることも、茲に擧げてをかなければならない遺憾さがある。斯様に封建的社會の所産した道路を後生大事と

保存しながら僅かに自動車のために姑息的改良を加へたと云ふのが誇るべき日本の道路だと云へば餘りにも道路人を誹謗するかに聞えるが事實非現代的——航空機の時代でない——でありしかも平和主義的な道路であると云はなければならぬ。

然しながら世界的な文化の向上と發展は後來何等考慮する必要を認めなかつた平和な道路の上にも國防と經濟の上から新しい用心と計畫が考へられねばならなくなつた。既に空想とか想像とかの領域を脱してわれわれは眞剣に現實の問題として敵機の來襲に備へなければならなくなつたのである。このとき日本の道路は急速に舊套を脱して新しい國策の下に新しい作戰の下に新しい道路政策を樹立し刻下の欲求を充足するに足る道路たらねばならないのである。

四

そこで先づわれわれが考へねばならない點は現在の日本の都市道路を大々的に改正して第一都市と農村とを結ぶ道路は鐵路唯一主義ではなく特に自動車車馬を中心とする無軌道道路を複數的に且つ多方面に配置しなければならぬ。繰返して云ふやうにわれわれ都市生活者は農村に與へるよりも寧ろより多く農村並びに地方からその物資を仰がねばならないのである。都市の農村依存性は物的資源に就いても人的資源に就いても同様であるばかりでなく戰時に於いては全く平和時に於ける幾倍かの數量を以つて都市は農村に依存しなければならぬのである。しかるに都市自體のもつ意義は戰時に於いて更に重大化し且つそれが強力であり強大な力を發揮しなければな

らないのであるから、農村との聯絡を一層強化する方法を講じなければならぬ。

第二には、軍事道路及び經濟道路または一般道路を軍事的經濟的理由或は交通機能の關係などから考慮してこれらの道路網を配置することも必要であらうが、特に都市道路に於いては地上道路に對して地下道路の完成とその道路網の配置に充分留意することが極めて重要なことと思はれる。

特に現代のやうに都市生活が複雑となるにつれて交通量も増加し、平時に於いてすら交通上一般市民の受けたる障碍も極めて多い状態にあるのであるから、交通安全の速力向上の點から云つても地下道路を完成して平時に於ける交通の充實を期するとともに、一方空襲下に於ける都市生活に交通上の支障を與へず交通機能に變化を來させず且つまた交通者並びに都市生活者の待避所避難所としての役割を果させる必要があるのである。かゝる諸要件を兼備すると云ふ點から云ふならば都市に於ける地下道は最も現代的理想的であると云ふことが出来るであらう。

地下鐵道は一八六三年ロンドンに開通したものが最初であると云ふが其後一八七二年にパリ一八九三年にポストン一八九六年にブタペストの一部にと云つた具合に、地下鐵道は一八六七十年頃から漸次重要視されて來たのであるが、此等は勿論空襲を豫定したものではなかつたが、その後一九〇〇年以後に於いて特にその發達が一般都市交通の混雑と危険の軽減から必要されて、一九〇二年にベルリン同四年ニューヨークにと云ふやうに次々と大都市に於いては地下鐵建設がその都市性を表徴するかの如くになつて來たのである。我が國に於いても周知の如く昭和二年即ち一九二七

年に東京に我國最初の地下鐵道が淺草上野間に開通したのを皮切りに六年に京都八年に大阪最近東京の澁谷新橋と次々と地下鐵道も發達と軒數の増加をみるに至つてゐるが。

しかしこれらの現在に於ける地下鐵道の發達は極めて微々たるもので僅かに地上道路の補助的役目を果してゐるに過ぎない状態に止まつてゐる。即ち現在の地下鐵道は元來都市交通量の増大に伴つてその輕減の必要から生じたものであつて、われわれが茲で云ふ空襲下に於ける道路と云ふ立場から建設されたものではない。然し當初の考へに於いても地下鐵道は例へば衛生上の問題や工事の困難とか構築費の高價な點などの若干の點を除けば交通機關として非常に優れた特色をもつてゐると云ふことは誰しも認めるところであらう。道路擴張の社會的巨費節約のためにも、道路用地の節約のためにも、交通機關として勾配や平面交叉を避けることが出来る點などから交通能力の増大のためにも、都市美や都市生活者にとつて一番苦しい噪音排除等々のためにもその利とする點もまた多いと云はなければならぬ。

しかも之れを空襲と云ふ近代戰の立場から考察するときには、空軍に對して道路が完全に遮蔽されてゐると共に空襲下に於いても交通機能は停頓せず、平常通り繼續出来るし尙且つそれが市民の待避所避難所となると云ふ様に空襲下都市道路の保有すべき諸條件を具備してゐるのである。従つて、われわれは新時代に於ける空襲を前提とすべき都市道路の唯一の理想道路として地下鐵乃至は地下道路を指摘しなければならぬだらう。地下道の著名なものにはシカゴのカナル街で其處

では地上道路は一般歩道及び輕量車交通路であり地下道は重量貨車の通行に使用してゐるが、我が國でも地下鐵停留所や地下室を連絡する地下歩道や地下横斷道路などが益々増加建設されてゐるが、この地下鐵道や地下道路の増加は將來の道路政策——特に空襲を前提とすべき現代道路政策の最も中心となるべき性質のものであらねばならない。

最後に地上道路にしてもそれはあらわに放任さるべきではなくして何等かの方法が講ぜられなければならぬ。遮蔽擬裝とか。更に重要なことは、從來の道路が餘りにも幅員が狭いと云ふことから生ずる空襲の犠牲を最少に止めるための工作が施さるべきである。即ち道路の幅が狭いと云ふことは、人家の稠密な都市に投下された爆彈の効果を増大する危険性をもつてゐる。もし幅員の大なる場合は道路が防火のための役割を演ずることが出来るのではあるまいか。類焼の難を避けしめ火災を一定街區にとどめしめるために役立つと云ふことも考へ得られるのである。

この幅員を大にすることが一種の防火壁を構成することになるのみならず、このことはまた交通の安全性と迅速性とを可能にする。何故ならば、幅員の大なることは同一道路に種々なる機能をもつ道路の存在を許容するからである。即ち、それに人道車道などの區別を設けさせてくれるのみならず更に車道が自轉車道、自動車道、電車道とそれぞれの専用道路を可能にするが故に交通事故を減少せしめ速力の發揮をも致すことが出来るのである。特に空襲下に於いて就中夜間の空襲管制下に於いて道路が暗黒とされなければならぬ場合に於いてもかゝる分業的道路の存在は絶對的に

必要となるであらう。われわれは更に茲に一般交通車の速度を一定することと、救急車のための特別専用道路を設定することによつて空襲下暗黒の道路を走ることが出来るのである。空襲下なればこそ消火消毒急患または警報傳令などのために暗夜を疾走することが必要であるが故に、これらの使命のための特別道路を設けるためにも幅員の大なる道路を建設しなければならぬのである。尤も幅員の大なることは横断にとつて不便と危険をもつかの如き懸念なきにしも非ずではあるが、しかしかゝる問題は幅員の大なることから得る利に比して極めて小さな不利であるのみならず、われわれの交通道德の遵守と云ふことによつて充分免れ得られる問題である。只道路用地の節約と云ふ點に於いてまた現在道路の擴大による人家の收用に於いて若干の犠牲を拂ふに至ることは致仕方ないとしなければなるまい。

以上の如くして常識的見地からするも現代に於いて航空機が重大な交通通信而も軍事的な使命をもつやうになつてゐる状態下にあつては、先づ道路に於いてもこの新事態に對處するための積極的な道路政策の樹立こそ極めて重大な國家的問題であらねばならぬだらう。この意味に於いて、都市道路は先づその農村地方との聯絡關係に於いて並びに防空避難交通の安全と云ふ意味に於いて、地下鐵道並びに地下道路の充分なる發達と然らずんば地面道路の幅員の擴大と云ふやうな空襲を前提とした道路計畫に最大な研究とその速けき建設が行はれねばならないと云ふことを強調しなければならぬのである。